

**World、ネットワーク 3 周年を機に
「人間であることの証明」の活用領域を拡大
企業・消費者向けプラットフォーム・AI エージェントへ
World ID の社会実装をさらに推進**

2026 年 7 月 30 日、東京 — World は、ネットワークの 3 周年を機に、オンライン上で実在する一人の人間であることを証明する World ID の活用領域を、企業向けサービス、消費者向けプラットフォーム、AI エージェント領域へ拡大します。また合わせて新たな日本事業の代表者として高橋正巳を紹介させていただきます。

昨今の AI が普及する社会において、生成 AI やロボットによるなりすまし、偽アカウント、不正なチケット取得などが課題視されています。実際に、2026 年 3 月に総務省と経済産業省が公表した「AI 事業者ガイドライン（第 1.2 版）」では、偽情報・誤情報の生成や発信が懸念されており、安全な AI 活用が求められています。その結果として、インターネット上で「相手が実在する人間か」「その行動が人間に承認されたものか」を確認する重要性は高まっています。また同ガイドラインでも、プライバシー保護や個人情報の適正な取り扱いは重要な観点として示されています。なりすましへの懸念が高まるなか、オンライン上でやり取りする相手が実在する人間であるという安心感をどのように担保しつつ、プライバシー保護や情報の取り扱いに慎重であり続けるかが、日本社会における重要な課題となっています。

そういった社会的な新たな課題に対して World は、氏名や住所、生年月日といった具体的な個人情報を開示せずに“実在する人間であること”を示し、誰もが安心してインターネットを利用できる新たな信用のインフラとして、World ID の社会実装を進めてまいりました。

現在、World のネットワークにおける World ID の利用者は 1,800 万人以上へと広がり、ローンチ以来、World ID による証明は 4 億 5,000 万回以上利用されています。

2026 年に導入された World ID 4.0 では、企業システム、消費者向けプラットフォーム、エージェント型ワークフローでの利用を見据え、対応範囲と機能を拡張しました。ネットワーク 3 周年にあわせた「Simple Plan※1」フェーズ 3 では、実在する人間同士のつながりや公平な参加が重要となるサービス、顧客や参加者が実在する人間であることを確認する必要がある企業領域、人間から正しく委任された AI エージェント領域へ、World ID の活用を広げていきます。

※1 Simple Plan : World が「人間であることを証明するインフラ」を世界規模に広げていくための 5 段階ロードマップ。

■World ID が広がる 3 つの領域

1. 企業向けサービス

World は Zoom および DocuSign と連携し、ビデオ会議、契約ワークフロー、メールセキュリティでの活用を進めています。Zoom では Deep Face※2 の統合により、会議参加者が実在する検証済みの人間であることを確認できるようになります。DocuSign とは、契約を承認する人物が実在する人間であることを確認できる機能を開発しています。

※2 Deep Face : Zoom などのオンライン会議で、画面上の参加者がディープフェイクではなく、実在する検証済みの人間であることを確認するための World ID の技術。

2. 消費者向けサービス

実在する人間同士のつながりや公平な参加が求められる領域に注力しています。日本では Tinder 上で、World ID と連携した Human Badge※3 を表示できるようになっています。

※3 Human Badge : 「本物の一人の人間」と確認済みであることを、Tinder などのプロフィール上で示すバッジ。

3. AI エージェント向けサービス

AgentKit※4 を通じて、エージェント委任、Human in the Loop※5（人間の関与）、エージェント型コマースをカバーします。エージェントが誰のために行動しているのか、その行動が実在する人間によって承認されたものかを示す信頼レイヤーの構築を進めています。現在、Okta、Vercel、Shopify、Coinbase と連携しています。

※4 AgentKit : World ID で確認済みの人が、自分の AI エージェントに「人間が背後にいる証明」を持たせるための開発者向けツール。

※5 Human in the Loop : AI エージェントに作業を任せつつ、購入や投稿など重要な操作だけは「World ID で確認済みの実在する人間が承認した」と証明する仕組み。

■Tools for Humanity 日本代表の高橋 正巳 コメント

World は、インターネット上のやり取りをどう信頼できるものにするか、という課題に応えるために構築されました。World ID は、不要な個人情報を開示することなく、自分が実在する一人の人間であることを証明できる、プライバシーを重視した仕組みです。3 周年を迎える今年、World はこの技術を、消費者向けプラットフォーム、企業システム、AI エージェント領域へ広げていきます。

日本は、World にとって重要な市場の一つです。デジタルサービスが生活に深く浸透している一方で、インターネット上で人間の参加をどう守るかという議論も丁寧に重ねられてきました。AI が高度化するほど、人々は、「自分が実在する人間であることを証明する方法」「自分に代わって AI エージェントが行動することを承認する方法」をより強く求めるようになります。World ID は、こうしたニーズに応えるために設計されている仕組みです。日本の皆さまが安心してオンラインでつながり、参加できる基盤を、パートナーの皆さまとともに築いてまいります。

■日本市場における World の取り組み

「実在する人間」であると検証済みの証”Human Badge”を導入

今年初め、World は日本で Human Badge を導入しました。これにより、プラットフォームやユーザーは、インターネット上でのアカウントが「実在する人間」であると認識しやすくなり、偽アカウントや複数アカウントによる影響を抑えることができます。Human Badge は、インターネット上で実在する検証済みの人間であることを示す共通のシンボルであり、そのアカウントがボットではなく、重複なく検証された一人の人間に紐づいていることを示します。

現在、日本で Orb での検証手続きを完了した Tinder ユーザーは、自身の World ID を Tinder アカウントに連携することで、プロフィール上に Human Badge を表示できます。これにより、相手を選ぶとき、また自分が選ばれるときの双方に安心感をもたらし、より実在性のあるつながりを後押しします。

東京大学 松尾・岩澤研究室との連携を開始

2026 年 4 月、東京大学 松尾・岩澤研究室は、World のグローバル AMPC ネットワークを支える独立したノードインフラを運用すると発表しました。学術機関は、独立したガバナンスと技術的信頼性を担保

するうえで重要な役割を果たします。**World** は、長期的に単一企業ではなく、信頼できる多様な組織によってネットワークが運用されることを目指しています。

この AMPC ノードは、UC Berkeley Center for Responsible Decentralized Intelligence (RDI) 、Nethermind、Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg (FAU) 、KAIST などの著名な機関と並び、**World** の国際的な主要ネットワークに加わるものです。AMPC は、これらの独立した信頼性ある組織のみによって運用され、**World Foundation** および **Tools for Humanity** はいずれも計算処理の当事者にはならず、これにより、分散型の運用体制を確保しています。

■ **World** について

World は、70 億人規模で一意性とプライバシーを維持できる唯一のソリューションを構築し、世界最大の「実在する人間」のネットワークとなることを目指しています。本プロジェクトは、AI 時代に人間をエンパワーするというミッションのもと、**Sam Altman**、**Max Novendstern**、**Alex Blania** によって構想されました。詳細は world.org および公式 X をご覧ください。



■ **Tools for Humanity** について

Tools for Humanity (TFH) は、AI 時代に人間のための技術を構築することを目的に設立されたグローバルテクノロジー企業です。**Sam Altman** と **Alex Blania** によって設立され、**World Network** の初期開発を主導し、**World App** を運営しています。**Tools for Humanity Corporation** は、米国カリフォルニア州サンフランシスコおよびドイツ・ミュンヘンに本社を置いています。詳細は toolsforhumanity.com をご覧ください。

